

四半期報告書

(第11期第1四半期)

自 平成28年1月1日

至 平成28年3月31日

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

東京都品川区西五反田二丁目2番3号

目 次

	頁
表紙	
第一部 【企業情報】	
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	5
第3 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
(1) 【株式の総数等】	8
(2) 【新株予約権等の状況】	8
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	8
(4) 【ライツプランの内容】	8
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	8
(6) 【大株主の状況】	9
(7) 【議決権の状況】	9
2 【役員の状況】	9
第4 【経理の状況】	10
1 【四半期連結財務諸表】	11
(1) 【四半期連結貸借対照表】	11
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	13
2 【その他】	19
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	20

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年5月13日

【四半期会計期間】 第11期第1四半期(自 平成28年1月1日 至 平成28年3月31日)

【会社名】 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

【英訳名】 POLA ORBIS HOLDINGS INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 鈴木 郷史

【本店の所在の場所】 東京都品川区西五反田二丁目2番3号
(同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)

【電話番号】 該当事項はありません。

【事務連絡者氏名】 該当事項はありません。

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区銀座一丁目7番7号

【電話番号】 03-3563-5517

【事務連絡者氏名】 常務取締役財務担当 久米 直喜

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第10期 第1四半期 連結累計期間	第11期 第1四半期 連結累計期間	第10期
会計期間	自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日	自 平成28年1月1日 至 平成28年3月31日	自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日
売上高 (百万円)	45,392	49,516	214,788
経常利益 (百万円)	3,047	3,381	22,359
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	2,446	3,616	14,095
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	421	2,620	10,957
純資産額 (百万円)	173,927	178,848	180,635
総資産額 (百万円)	214,080	220,691	235,734
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	44.25	65.41	254.95
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	44.20	65.32	254.64
自己資本比率 (%)	81.1	80.9	76.5

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含んでおりません。
- 3 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成28年1月1日～平成28年3月31日）におけるわが国の経済は、二人以上の勤労者世帯における実収入の減少等により消費マインドに弱さが見られるものの、雇用情勢や企業収益の改善等を背景に緩やかな回復基調が続いており、今後もこの傾向が継続するものと期待されます。

国内化粧品市場においては、訪日観光客のインバウンド消費により特にスキンケア品が堅調に推移しております。しかしながら、インバウンド消費を除く市場規模は前年並みとなっております。海外化粧品市場においては、中国の経済成長に鈍化がみられるものの、緩やかな拡大傾向が続いております。

このような市場環境のもと、3ヶ年中期経営計画（平成26年から平成28年）の最終年である今年度は、国内の更なる収益基盤強化と海外展開の加速、資本効率改善による企業価値向上を達成すべく、取り組みを進めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は次のとおりとなりました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、基幹ブランドであるPOLAブランド及びORBISブランドに加え、育成ブランドであるTHREEブランド及びdecenciaブランドの好調により、前年同期比9.1%増の49,516百万円となりました。営業利益は売上高増による売上総利益増加により前年同期比26.2%増の3,673百万円、経常利益は前年同期比11.0%増の3,381百万円となりました。以上の結果に加え、固定資産譲渡による特別利益を計上しましたが、法人税等の増加により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比47.8%増の3,616百万円となりました。

【業績の概要】

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	45,392	49,516	4,123	9.1
営業利益	2,909	3,673	763	26.2
経常利益	3,047	3,381	334	11.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,446	3,616	1,169	47.8

[セグメント別の業績]

売上高（外部顧客への売上高）

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	42,268	46,154	3,885	9.2
不動産事業	728	757	28	3.9
その他	2,395	2,605	209	8.7
合計	45,392	49,516	4,123	9.1

セグメント利益又は損失（△）（営業利益又は損失（△））

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	2,691	3,820	1,129	42.0
不動産事業	317	479	161	51.0
その他	△68	△412	△343	—
セグメント利益の調整額 (注)	△30	△214	△183	—
合計	2,909	3,673	763	26.2

(注) セグメント利益の調整額とは、グループの内部取引に伴う利益及びセグメントに含まれない経費などを連結時に消去・加算した金額であります。なお、セグメント利益の調整額の詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等） 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報（注2）」をご覧ください。

（ビューティケア事業）

ビューティケア事業は、基幹ブランドとして「POLA」「ORBIS」を、海外ブランドとして「Jurlique」「H2O PLUS」を、育成ブランドとして「pdc」「FUTURE LABO」「decencia」「ORLANE」「THREE」を展開しております。

POLAブランドでは、長期的な安定成長を果たすべく、ブランディングの刷新、プロフェッショナルなビューティディレクター育成に向けた販売手数料体系の変更や教育投資を行っております。国内市場においては、エイジングケアしながら太陽光から肌を守る日中用クリーム「B.A プロテクター」を3月に発売したことに加え、訪日観光客によるインバウンド売上が美容健康食品や化粧品で拡大したことにより、好調に推移しております。海外市場においては、重点市場の中国百貨店事業において、お客さま満足の向上を目指した店頭品質の向上に取り組んでおりますが、香港市場を除き、全体として厳しい状況となっております。以上の結果、POLAブランドは前年同期を上回る売上高となりました。

ORBISブランドでは、ブランド進化による更なる成長と収益向上を目指し、ブランド発信の強化、SNSを活用したお客さま獲得と2回目購入率の向上に取り組んでおります。国内市場においては、美白とエイジングケアを実現する「ORBIS=U WHITE」シリーズを3月に発売しました。また、SNSの活用によりお客さま数が増加する等、好調に推移しております。海外市場においては、中国での自社及び外部ECが好調に推移しております。以上の結果、ORBISブランドは前年同期を上回る売上高となりました。

海外ブランドについては、成長ドライバーであるアジアを中心とした高成長維持と収益貢献の実現に向けた取り組みを行っております。Jurliqueブランドは、豪州市場では前年並みで推移しておりますが、香港や中国市場で厳しい状況となりました。H2O PLUSブランドは、再成長に向けたブランドリステージに組み込み、引き続き中国の不採算店舗の閉鎖を行っております。以上の結果、海外ブランドは前年同期を下回る売上高となりました。

育成ブランドについては、THREEブランドやdecenciaブランドの好調により、前年同期を上回る売上高となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は46,154百万円（前年同期比9.2%増）、営業利益は3,820百万円（前年同期比42.0%増）となりました。

(不動産事業)

不動産事業では、都市部のオフィスビル賃貸を中心に、魅力的なオフィス環境の整備による賃料の維持向上と空室率の低下に取り組むとともに、子育て支援に特化した賃貸マンション事業も展開しております。当第1四半期連結累計期間は、テナント稼働率や坪単価の上昇により、前年同期を上回る売上高となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は757百万円（前年同期比3.9%増）、営業利益は479百万円（前年同期比51.0%増）となりました。

(その他)

その他に含まれている事業は、医薬品事業及びビルメンテナンス事業であります。

医薬品事業では、化粧品や医薬部外品研究で培ってきた当社グループの研究成果を活用し、新規医薬品の開発・製造・販売及び医薬品の製造受託を行っております。当第1四半期連結会計累計期間は、重点領域である皮膚科領域にリソースを集中した継続的な活動に加え、グラクソ・スミスクライン株式会社との独占販売契約のもと、尋常性ざ瘡治療配合剤「デュアック®配合ゲル」の販売に努めた結果、前年同期を上回る売上高となりました。

一方営業利益は、「デュアック®配合ゲル」の初期プロモーションにかかる追加費用投入により前年同期を下回る結果となりました。

ビルメンテナンス事業は、当社グループ会社を主な取引先とし、ビルの運営管理を行っております。当第1四半期連結累計期間においては、継続した営業活動により好調に受注を拡大したものの、受注単価減少により前年同期を下回る売上高となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は2,605百万円（前年同期比8.7%増）、営業損失は412百万円（前年同期は営業損失68百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ15,043百万円減少し、220,691百万円（前連結会計年度末比6.4%減）となりました。主な増減項目は、現金及び預金の減少12,283百万円、受取手形及び売掛金の減少5,426百万円、遊休資産の売却による土地の減少740百万円により減少し、一方で余剰資金の運用による投資有価証券の増加3,716百万円により増加しております。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ13,255百万円減少し、41,842百万円（前連結会計年度末比24.1%減）となりました。主な増減項目は、未払法人税等の減少4,342百万円、販売手数料未払金等の減少による流動負債「その他」の減少7,949百万円により減少しております。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,787百万円減少し、178,848百万円（前連結会計年度末比1.0%減）となりました。主な増減項目は、為替の影響による為替換算調整勘定の減少810百万円、剰余金の配当4,423百万円により減少し、一方で親会社株主に帰属する四半期純利益の計上3,616百万円により増加しております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、948百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変動はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年5月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	57,284,039	57,284,039	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社の 標準となる株式であります。 なお、単元株式数は100株で あります。
計	57,284,039	57,284,039	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年1月1日～ 平成28年3月31日	—	57,284,039	—	10,000	—	—

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成28年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,996,100	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 55,275,100	552,751	—
単元未満株式	普通株式 12,839	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	57,284,039	—	—
総株主の議決権	—	552,751	—

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社が所有する自己株式10株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成28年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ポーラ・オルビスホ ールディングス	東京都品川区西五反田 二丁目2番3号	1,996,100	—	1,996,100	3.48
計	—	1,996,100	—	1,996,100	3.48

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成28年1月1日から平成28年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年1月1日から平成28年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	47,451	35,167
受取手形及び売掛金	27,646	22,219
有価証券	16,700	17,200
商品及び製品	13,463	13,565
仕掛品	1,294	1,252
原材料及び貯蔵品	4,693	4,804
その他	8,928	9,355
貸倒引当金	△154	△129
流動資産合計	120,022	103,435
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	19,354	18,429
土地	19,135	18,394
その他（純額）	14,877	14,738
有形固定資産合計	53,367	51,562
無形固定資産		
のれん	11,894	11,487
商標権	8,983	8,812
その他	11,866	11,509
無形固定資産合計	32,745	31,810
投資その他の資産		
投資有価証券	21,447	25,163
その他	8,219	8,786
貸倒引当金	△67	△67
投資その他の資産合計	29,599	33,883
固定資産合計	115,711	117,255
資産合計	235,734	220,691

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,386	5,118
短期借入金	600	600
未払法人税等	5,523	1,180
賞与引当金	1,734	1,941
ポイント引当金	3,450	3,127
その他の引当金	390	124
その他	26,727	18,777
流動負債合計	43,812	30,869
固定負債		
長期借入金	1,000	1,000
その他の引当金	56	56
退職給付に係る負債	4,026	3,923
その他	6,202	5,993
固定負債合計	11,285	10,973
負債合計	55,098	41,842
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	90,722	90,722
利益剰余金	77,381	76,574
自己株式	△2,194	△2,194
株主資本合計	175,909	175,102
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	512	331
為替換算調整勘定	4,359	3,548
退職給付に係る調整累計額	△542	△540
その他の包括利益累計額合計	4,329	3,339
新株予約権	183	197
非支配株主持分	214	208
純資産合計	180,635	178,848
負債純資産合計	235,734	220,691

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)
売上高	45,392	49,516
売上原価	8,703	9,443
売上総利益	36,689	40,073
販売費及び一般管理費		
販売手数料	10,259	10,874
販売促進費	4,352	5,294
広告宣伝費	1,548	1,814
給料手当及び賞与	4,903	4,797
賞与引当金繰入額	1,014	1,113
ポイント引当金繰入額	2,175	2,362
その他	9,526	10,143
販売費及び一般管理費合計	33,779	36,400
営業利益	2,909	3,673
営業外収益		
受取利息	72	60
為替差益	56	—
その他	67	51
営業外収益合計	195	111
営業外費用		
支払利息	26	16
為替差損	—	374
その他	32	11
営業外費用合計	58	402
経常利益	3,047	3,381
特別利益		
固定資産売却益	0	2,996
為替換算調整勘定取崩益	538	—
その他	5	3
特別利益合計	544	3,000
特別損失		
固定資産除却損	42	44
その他	1	3
特別損失合計	43	48
税金等調整前四半期純利益	3,548	6,334
法人税、住民税及び事業税	557	2,388
法人税等調整額	548	325
法人税等合計	1,106	2,713
四半期純利益	2,441	3,620
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,446	3,616

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)
四半期純利益	2,441	3,620
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	127	△180
為替換算調整勘定	△2,143	△820
退職給付に係る調整額	△4	1
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	△2,020	△999
四半期包括利益	421	2,620
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	423	2,626
非支配株主に係る四半期包括利益	△2	△5

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間
(自 平成28年1月1日 至 平成28年3月31日)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、
当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

下記相手先の金融機関等からの債務に対し、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成27年12月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成28年3月31日)	
従業員	97百万円	従業員	92百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産及び長期前払費用に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)
減価償却費	1,562百万円	1,628百万円
のれんの償却額	197百万円	175百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間（自平成27年1月1日 至平成27年3月31日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年3月26日 定時株主総会	普通株式	8,126	147.00	平成26年12月31日	平成27年3月27日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成28年1月1日 至平成28年3月31日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年3月30日 定時株主総会	普通株式	4,423	80.00	平成27年12月31日	平成28年3月31日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティケ ア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	42,268	728	42,997	2,395	45,392	—	45,392
セグメント間の内部 売上高又は振替高	19	119	138	380	518	△518	—
計	42,288	847	43,136	2,775	45,911	△518	45,392
セグメント利益又は 損失(△)	2,691	317	3,008	△68	2,940	△30	2,909

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品事業及びビルメンテナンス事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△30百万円には、セグメント間取引消去504百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△535百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自平成28年1月1日至平成28年3月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティケ ア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	46,154	757	46,911	2,605	49,516	—	49,516
セグメント間の内部 売上高又は振替高	27	232	260	456	716	△716	—
計	46,181	990	47,171	3,061	50,233	△716	49,516
セグメント利益又は 損失(△)	3,820	479	4,299	△412	3,887	△214	3,673

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品事業及びビルメンテナンス事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△214百万円には、セグメント間取引消去476百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△690百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成27年 1 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成28年 1 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)
(1) 1 株当たり四半期純利益金額	44.25円	65.41円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	2,446	3,616
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	2,446	3,616
普通株式の期中平均株式数(株)	55,284,039	55,287,929
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額	44.20円	65.32円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(株)	63,990	75,160
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株 当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜 在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があ ったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年5月13日

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 神山宗武 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 杉本義浩 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ポーラ・オルビスホールディングスの平成28年1月1日から平成28年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成28年1月1日から平成28年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年1月1日から平成28年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ポーラ・オルビスホールディングス及び連結子会社の平成28年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象に含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年5月13日

【会社名】 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

【英訳名】 POLA ORBIS HOLDINGS INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 鈴木 郷史

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 東京都品川区西五反田二丁目2番3号
(同所は登記上の本店所在地で実際の業務は以下で行って
おります。)
東京都中央区銀座一丁目7番7号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長鈴木郷史は、当社の第11期第1四半期（自平成28年1月1日至平成28年3月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。